

江戸時代に創業し石川県を拠点に財をなした北前船主の西谷家の邸宅（同県加賀市）から見つかった明治時代のチラシ広告「引き札」3点が10月下旬、北陸銀行小樽支店（稲穂2）に寄贈された。寄贈は、同銀行前身の旧十二銀行小樽支店開設の背景に、北陸と北海道の北前船交流があったことが縁となり実現。北陸と小樽のつながりを示す貴重な資料として、北陸銀行小樽支店の応接室に飾られている。（宮本夕梨華）

明治の広告「引き札」小樽へ

石川の北前船主邸宅で発見

北陸銀支店に寄贈 交易史料、美術的価値も

寄贈者は石川県加賀市の本瀬邸子さん。1894年（明治27年）に旧小樽倉庫を完成させた西谷家5代目庄八の子孫だ。

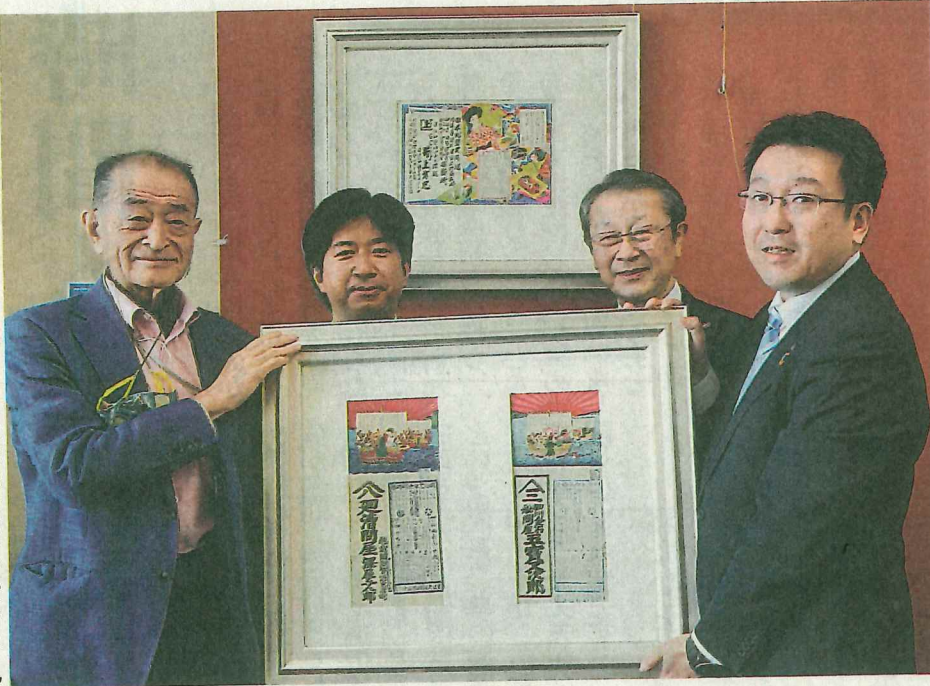
贈られた引き札は多色刷り版画で、すべて北前船寄港地のもので、79年（同12年）発行の1枚は敦賀港の廻漕問屋、81年（同14年）発行は金沢の船問

屋、明治末期のものは富山県伏木港の旅館の広告で、宝船や、髪を結った当時の女性や子どもなどが描かれている。

いずれも小樽商科大の高野宏康学術研究員と北海道北前船調査会を主宰する土屋周二さんが西谷家の邸宅を調査した際に発見した。引き札は二十数点見つかったが、旧十二銀行創業の77年（同10年）や、道内に進出した99年（同32年）に発行年が近いものを選んで寄贈した。

同支店では10月21日、坂井鉄道支店長や現在の倉庫会社「小樽倉庫」の山本信彦会長、高野研究員らが出席してお披露目会を開催した。坂井支店長は「歴史的な資料をいただいた感慨深い」と喜んでいった。

浮世絵の技術を用いて描かれた引き札は美術的価値も高い上、残存するものが少なく貴重という。高野研究員は「北前船の活動とともに全国各地に広がった引き札を、小樽市民が銀行で見られるというのは意義がある」と話している。



北前船主の西谷家の子孫から北陸銀行小樽支店に贈られた引き札